「2019 年度 英検 新方式 実施概要」のご案内にあたり

先般ご案内いたしました、下記の「2019 年度 英検 新方式 実施概要」におきまして、特に重要事項につきまして、このたび、結論に至るプロセスと協会の考え方をまとめました。以下、本資料の P.2- 5 をご高覧願います。

英検

2018 年 12 月 7 日
公益財団法人 日本英語検定協会

速報！

2019 年度 英検 新方式 実施概要

公益財団法人 日本英語検定協会（理事長：松川孝一、所在地：東京都新宿区、以下、「英検協会」）は、このたび、実用英語技能検定（以下、「英検」）の新方式、「英検 CBT」、「英検 2020 1 day S-CBT」、「英検 2020 2 days S-Interview」それぞれの 2019 年度の実施概要を、まずは速報としてお知らせ申し上げます。詳細につきましては、発表できる段階となりましたら、速やかにご報告いたしますので今暫くお待ち願います。

【2019 年度 英検新方式 実施概要（予定）】

項目		実施方式		
		英検 CBT（後援：文部科学省）	英検 2020 1 day S-CBT（後援：文部科学省）	英検 2020 2 days S-Interview（後援：文部科学省）
対象受験者		制限なし	高校2年生 限定*	2019年度は ひとまず実施せず
実施方式	RL	CBT	CBT*	
	W	CBT	PBT	
	S	吹き込み	吹き込み	
S 受験可否		申込者全員（一次合否を問わず可能）		
日程・実施回数		毎月実施 準1級は11月～毎月実施*	11月～翌年3月 毎月実施*	
受験日数		1日	1日	
会場数		19か所 順次拡大予定	47都道府県に配置 （一部、離島を含む）*	
対象級		2級～3級の3グレード 11月より準1級も実施*	準1級～3級の4グレード	
検定料	準1級	9,800円* （準1級を新たに追加）	9,800円	
	2級	7,500円	7,500円	
	準2級	6,900円	6,900円	
	3級	5,800円	5,800円	
障がい等のある受験生への配慮		あり*	あり*	

※2018 年 3 月に発表された、大学入試英語成績提供システムへの参加試験の実施概要から変更となる箇所に＊印を記しています。
発表当初の英検実施方式の内容につきましては、P.5 の比較表をご参照願います。

なお、上述の実施方針は 2019 年度に関するものであり、2020 年度につきましてはこの限りではございません。2020 年度の実施概要は、来年度、決定次第、速やかにご案内申し上げます。

「2019 年度 英検新方式 実施概要」のご案内にあたり

前提として、今回はあくまでも 2019 年度の例外措置に対応するための実施概要であり、2020 年度はこの限りではございません。

■なぜ 2019 年度はひとまず「英検 2020 2 days S-Interview」の実施を見送るのか？

・2018 年 8 月に文部科学省が発表※した、高 2 生の「例外措置」は、経済的に困難な事情のある受験生の救済と遠隔地（離島含む）の受験生の救済について示されています。この発表を受け、英検協会は、こうした受験生が、他の受験生と不公平にならないよう、2019 年度の各方式の実施概要について最善策の検討に入りました。

・まずは、例外措置の要件である、CEFR 基準 B２以上（英検における準 1 級）とする、準 1 級の実施（11 月から）については、「英検 2020 1 day S-CBT」と「英検 CBT」で目途が立ち、また「英検 2020 1 day S-CBT」については、一部の離島を含む全国の都道府県での実施、「英検 CBT」についても、現在は全国 19 会場での実施ですが、今後拡大の見通しが立ち、さらに 11 月以降、どちらの方式もほぼ毎月開催できる目途が立ちましたことで、「英検 2020 S-Interview」の実施の検討を行いました。

・「英検 2020 S-Interview」は受験日数に２日を要するため、対象となる経済的に困難な事情のある受験生も含めて、受験会場まで行く交通費を２回支払わなくてはならなくなります。さらに、遠隔地等、地域によっては移動費用もかさむことが十分に考えられます。これは文部科学省の掲げる、経済的に困難な事情のある受験生の救済、および遠隔地の受験生の救済という目的と合致しないものと判断しました。

・また、新方式の３つのうち２つの方式を 2019 年度に行うことを決め、「英検 2020 S-Interview」も実施してしまいますと、経済的に余裕のある受験生は、CEFR 基準 B2 である準 1 級の検定料（9,800 円）を支払い、3 方式とも受験し、さらに許す限りの回数すべてを受験することが予想できます。これもまた経済的に困難な事情のある受験生との格差が生じてしまうおそれがあり、本旨と相反するものと判断しました。なお受験可能回数につきましては、英検協会としても今後ルールを定める予定です。

・では、「英検 2020 S-Interview」を 2019 年度に実施しない場合には、2020 年度の高３生はぶっつけ本番で受験することになってしまうといったご意見・ご懸念があるかもしれませんが、そもそも「英検 2020 S-Interview」は、従来型の英検と変わらず、違いは一次試験の合否に関わらず全員が二次試験の面接に進めるところです。従来型の英検は、低年齢層からシルバー世代まで幅広くご活用いただいている試験であり、試験慣れを目的として「英検 2020 S-Interview」の受験を希望する受験者は、わざわざ「英検 2020 S-Interview」の検定料を支払わずとも、より安価な従来型の英検を受験いただくことでそのようなニーズに応えることができるものと考えました。これについても経済的格差による配慮を優先した次第です。

・最後に、Speaking において、CBT 方式よりも面接（PBT 方式）の方が得意で、「英検 2020 S-Interview」で受験したい、といったご意見も例外措置対象者の中にあるものと存じます。しかしながら、やはり 2019 年度の高 2 生の例外措置は、地域格差と経済格差への配慮が目的であるということを重要視し、相対的判断として、2019 年度は、「英検 2020 S-Interview」の実施をひとまず見合わせる結論に至りました。

以上

「2019 年度 英検新方式 実施概要」のご案内にあたり

前提として、今回はあくまでも 2019 年度の例外措置に対応するための実施概要であり、2020 年度はこの限りではございません。

■なぜ 2019 年度の「英検 2020 1 day S-CBT」の実施は、申請時の実施要項では PBT だった RLW を、W だけ PBT のままにし、RL を CBT に変更したのか？（S は CBT で変わらず）

R: Reading, L: Listening, W: Writing, S: Speaking

●今年度 8 月に文部科学省が発表した※、2019 年度、高 2 生の「例外措置」についての認識

・2019 年度の高 2 生の例外措置は、経済的に困難な事情のある受験生の救済と、遠隔地（離島含む）の受験生の救済について示されています。それらについて、英検協会は以下のように認識しております。

ーその内容は、経済的に困難とする基準や、遠隔地（離島含む）の要件が定義され、その基準や要件を満たす高 2 生の受験生のみが、2019 年度の例外措置対応として受験できるというものではなく、2019 年度の高 2 生が 2020 年度に高 3 生になり、その時、上記の基準や要件を満たしていると申請し、その申請が受理された方々が、その例外措置を活用できる。

—さらに、この例外措置は、2019 年度の高 2 生が 2020 年度に高 3 生になり、あいにく病気等により、やむなく高 3 生時に受験できない方々も、高 2 生時の成績について提供ができる。

—また、基準である CEFR・B 2 以上（英検における準 1 級以上）という定義についても、すでに高 2 生までに取得している、ということではなく、高 2 生の間に取得すれば、その例外措置の対象となる。

・つまり、試験実施団体（企業）は、2019 年度、全国でどのぐらいの受験者が対象か、という実受験者数の予測ができず、実質、全国の高 2 生を受け入れるだけのキャパシティを全国規模で用意し実施しなくてはならないことになります。

・それゆえ、試験実施団体（企業）は、これらの受験生を受け入れるだけの全国での会場や座席数の確保、運営スタッフの確保、また一定期間内に正確かつ確実に成績提供を行う必要に迫られます。

●2019 年度、高 2 生の「例外措置」対応についての協会の基本方針

・こうした状況下で、英検協会としては、2019 年度の高 2 生の例外措置に対応する手立てとして、CBT 方式での運用と PBT 方式での運用のそれぞれの効率性等についての検証を行いました。

・その結果、試験実施前、また試験当日の実施工程だけに限らず、答案等の試験資材の回収や、正確かつ迅速に成績処理を行うための後工程も含めた実施工程全体を総合的に判断し、2019 年度の例外措置の対応については、CBT 方式での運用の方が PBT 方式での運用よりも最善と結論づけました。

・そこで英検協会としては、少なくとも 2019 年度に限っては、実施する方式は全て CBT 方式での運用を基本方針とすることを決定しました。

●PC リテラシーに関する協会の考える受験生への配慮

・ただし、Writing については、タイピングで入力する CBT 方式と実際に紙に字を書く PBT 方式とでは、対象受験生は社会人ではなく高校生であることから、受験者により得意・不得意が出る可能性があり得るのではないかと考えました。

・そこで、英検協会としては、2018 年 8 月から実施している「英検 CBT」においては、すでに Writing を CBT 方式で実施していることもあり、「英検 2020 1 day S-CBT」の Writing については、2019 年度は、ひとまず紙に文字を書く PBT 方式とし、両試験でライティングの実施方式を分けることで、受験生には、その選択肢から、Writing をタイピングで入力する（CBT 方式）、もしくは紙に字を書く（PBT 方式）のどちらか得意な実施方式を検討し、「英検 CBT」で受験するか、「英検 2020 1 day S-CBT」で受験するかを決定いただくこととしました。

・最後に、Reading/Listening の実施方式が CBT 方式に変わることで受験生が不慣れであるために、場合によっては操作にミスが起こり、PBT 方式での受験よりも不利になるとのご意見があるかもしれません。それについても慎重に検討を重ねてまいりました。最終結論に至りましたのは、まずは CBT 方式と PBT 方式とで実施方式は異なりますが、問題形式はどちらも変わらないという前提において、確かに Writing については、上位級になるほど分量も多く、高校生である受験生にとって CBT 方式によるタイピングの得意・不得意はあり得ると判断し、前述のとおりの対策を講じました。

・では Reading/Listening での CBT 方式による操作性の違いをどう捉えるかについて検討した際、実際に Reading/Listening における PC 操作は、ID やパスワードの入力、長文においてはマウスを使用しスクロールして読む、解答を選択肢から選びクリックするといった操作となります。

・当然、こうした操作も不慣れな受験生もいる、というご意見もあるかもしれませんが、現状、こうした PC 操作は、学校教育等において、受験生にとっては触れる機会があるものと考え、英検協会としては、当該操作は許容範囲内と判断しました。

・Speaking の実施方式についてもほぼ同様の理由です。ただし Speaking については、会場運営上、受験者同士の声ができる限り聞こえない環境づくりが重要と考えております。それについては、現在、対策を検討しているところです。

・以上、相対的判断として、最終的に「英検 2020 1 day S-CBT」については、2019 年度の実施方式はひとまず Reading/Listening/Speaking は CBT 方式、Writing は PBT 方式とした次第です。

以上

「例外措置」への対応に伴う 2019 年度の英検新方式　実施概要

～2018 年 3 月　発表時との比較～

2018 年 8 月に文部科学省が発表した「例外措置」への対応を受け、下記の通り、2019 年度の英検新方式の実施概要を決定いたしました。

【2018 年 3 月 「大学入試英語成績提供システム」参加試験　発表時の実施概要】

項目		実施方式		
		英検 CBT	英検 2020 1 day S-CBT	英検 2020 2 days S-Interview
対象受験者		制限なし	高校3年生 限定	高校3年生 限定
実施方式	RL	CBT	PBT	PBT
	W	CBT	PBT	PBT
	S	吹き込み	吹き込み	対面式
S　受験可否		申込者全員（一次合否を問わず可能）		
日程・実施回数		毎月実施	4-12月 年間2回	6-7月、10-11月 年間2回
受験日数		1日	1日	2日
会場数		19か所 順次拡大予定	47都道府県に配置 今後順次拡大を検討	公開会場：約400か所
対象級		2級～3級の3グレード	準1級～3級の4グレード	1級～3級の5グレード
検定料	1級	—	—	16,500円
	準1級	—	9,800円	9,800円
	2級	7,500円	7,500円	7,500円
	準2級	6,900円	6,900円	6,900円
	3級	5,800円	5,800円	5,800円

【2019 年度の英検新方式　実施概要（予定）】

項目		実施方式		
		英検 CBT	英検 2020 1 day S-CBT	英検 2020 2 days S-Interview
対象受験者		制限なし	高校2年生 限定*	2019年度は ひとまず実施せず
実施方式	RL	CBT	CBT*	
	W	CBT	PBT	
	S	吹き込み	吹き込み	
S　受験可否		申込者全員（一次合否を問わず可能）		
日程・実施回数		毎月実施 準1級は11月～毎月実施*	11月～翌年3月 毎月実施*	
受験日数		1日	1日	
会場数		19か所 順次拡大予定	47都道府県に配置 （一部、離島を含む）*	
対象級		2級～3級の3グレード 11月より準1級も実施*	準1級～3級の4グレード	
検定料	準1級	9,800円* （準1級を新たに追加）	9,800円	
	2級	7,500円	7,500円	
	準2級	6,900円	6,900円	
	3級	5,800円	5,800円	
障がい等のある 受験生への配慮		あり*	あり*	

※2018 年 3 月に発表された、大学入試英語成績提供システムへの参加試験の実施概要から変更となる箇所に＊印を記しています。

※本資料における、2018 年 8 月に文部科学省が発表した、「大学入試英語成績提供システム」における、2019 年度の高 2 生の例外措置に関する資料は以下のとおりです。ぜひ併せてご高覧いただければと存じます。

参照：「大学入学共通テストの枠組みで実施する民間の英語資格・検定試験について」
URL　http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/__icsFiles/afieldfile/2018/08/28/1408564_1.pdf

- P.20 - 23　「大学入学共通テスト実施方針（追加分）策定に当たっての考え方」
- P.29　「各資格・検定試験と CEFR との対照表」